令和２年

３月５日（木）

（通算357回）

旧東海道伊勢国をあるく①

おひなさまin関宿

参加者	８名	歩数	９000歩

今年10周年を迎える「東海道のおひなさまin関宿」の開催期間（2月15日～3月7日）に合わせ企画した4日（水）が雨のため延期、翌5日（木）の実施となった。天気予報は曇りのち晴れとのことだが、西高東低の冬型気圧配置と太平洋側に延びる寒冷前線の影響で朝から冷たい北西の風が吹き、曇り空、青空、雨、霙が短時間に目まぐるしく変わる一日となった。約1．8Km続く関宿の47施設に様々なお雛様が展示されているとのことで、期待をし10時30分曇り空の関駅を出発。国道一号線を横断し街道に入ると、町並みに溶け込んだ百五銀行が目に止まる。世界中に広がる新型コロナウィルスの影響か人通りはほとんどなく静かだった。しばらく歩いて関宿の東の入り口にあたる東の追分に着くが、百五銀行を通過した頃から雨が降り出していた為、大鳥居・一里塚・常夜灯を見て直ぐに同じ道を引き返す。いっぷく亭木崎町で雨宿りの後「関の山車（やま）会館」「関まちなみ資料館」「関宿旅籠玉屋歴史資料館」の3館共通入場券を配布、再集合を「小萬の湯」12時45分とし一旦解散する。昨年の夏に新設された関の山車（やま）会館には祭りに曳き出される山車（やま）や幕などの付属品が展示されており、狭い東海道の道筋を山車（やま）が通る様子は、これで限度いっぱいの意味で使われる「せきのやま」の語源となったと言われる。会館見学の後、三々五々町並みを西に向かい、旧川北本陣の門を移築した延命寺を拝観。中町の町並みに入り、関まちなみ資料館、土蔵に歌川広重の浮世絵が展示されている関宿旅籠玉屋歴史資料館などを見学。前月歩いた三河国赤坂宿の旅籠の様子が描かれた浮世絵もあり、宿場の繁栄を支えた飯盛り女の働く姿に当時が偲ばれ感動。江戸時代の豪商で、関宿ではめずらしい三角形屋根の橋爪家には様々なおひなさまが展示されおり、ご主人から詳しく説明を聞くことができた。眺関亭で関宿の町並みを一望、今は郵便局となっている高札場跡を通過、小萬の湯、休憩所、食事処など各所で昼食を摂り予定時刻通り再集合する。小萬の湯隣接の休憩施設に展示されているお雛様の前で集合写真を撮った後、しばらく街道を歩くと西の追分に到着。道標を見て同じ道を地蔵尊まで戻り、駅に隣接する「道の駅関宿」で歓談の後、13時59分の列車で帰路に就く。

東の追分・大鳥居と常夜灯

橋爪家のお雛様